

口元が楽しい

一流のアスリートのインタビューや対談を聞いていると、この人たちは他の人より、何倍も何十倍も苦しい思いをしてきているはずなのに、その苦勞を楽しんでいるように見えるときがあります。これはいったいどうしたことでしょう？この人たちは自分の定めた目標を少しずつでもクリアしていくことに充実感を感じているように見えます。だから、少々苦しいことがあっても、練習を積んで少しずつ克服していくことを楽しんでいるのでしょう。私たち常人にはとても理解できないような精神構造のように感じます。

そこまでの心のもち方はできなくとも、部分的なら真似をすることができます。思い通りにならないこと、うまくいかないことがあっても、そこで落ち込まず、自分なりに動いてみて、少しずつでも状況が好転していくことを楽しむことです。楽しむとまではいかなくとも、少しずつ変わっていくことで自分に励みをもつことです。私自身にそれができているかと言えば、目の前にあることにくよくよしているだけのこともあります。しかし、人生の経験を積むことによって、「誠実にやっていたら、何とかなるさ」という心のもち方もだいぶんできるようになってきました。自分の目の前にあって、自分でどうにかしなければならぬと思うような問題であっても、自分一人でやっているわけでは決してないのです。一人で抱えようとせずに、それでも自分でできることは誠実にこなして、その上で変化を見ることを楽しめるようになれたらいいと思います。

5月15日の木曜日、天候に恵まれる中、滑川市内7校の5、6年生が集う、滑川市学童体育大会が実施されました。保護者の皆様、2日間のお弁当の準備ありがとうございました。本校の子供たちは他校の子供たちに負けず、今もっているものを精一杯に出して、よく頑張ってくれたと思います。なにより、大きなけががなくやり終えてくれたことに「ほっと」胸をなでおろしました。それと同時に、「集団としての一つの意志」のようなものを感じ取ることができました。意思ではなく意志としたのは、「進んで何かに向かおうとする積極的な気持ち」があると思ったからです。開閉会式の凜とした姿、競技での最後まであきらめない様子、温かく応援する姿勢、子供らしい精一杯のものをここで出し切ろうとする前向きな気持ちがありました。そこにはもちろん5、6年生の先生方がチームで全体を指導してくれたことはもちろん、その先生方の思いを越えて素直に頑張ろうとする気持ちが前面に出ていたように感じました。多くのことを学んでくれたと思います。

これからまだまだ学校の活動は続きます。今後も子供たちの姿にご声援よろしくをお願いします。（校長 村杉 一也）